

# 佐賀空港滑走路延長事業 環境影響評価方法書

## の概要



令和6年4月

佐賀県

# 1.はじめに

佐賀空港は、東アジアを代表するハブ空港の中心に位置し、九州各地とのアクセスに優れているため、佐賀県や福岡県南西部をはじめ九州一円、さらには海外からも利用しやすい地理的優位性があることに加え、福岡空港の代替機能や広域災害時の対応拠点としての機能など、様々なポテンシャルを有しており、「佐賀空港がめざす将来像2024」においては、「九州佐賀国際空港をゲートウェイとして、九州がアジアの活力を取り込み、日本で最も活力のある地域になっている」と定めています。

これまで、佐賀空港に就航中の国際線運航会社からは、2,000m滑走路のため、経験豊富なパイロットで運航するなどの特別な対応が必要であることから、2,500m化への早期実現を望まれています。

2,500m化することで既存の運航会社による路線展開の自由度が増し、東南アジア諸国等との直行便の就航も可能となります。これにより、国際線の増便や新規路線の就航による更なる国際交流の促進も見込まれ、また、観光立国の推進にも寄与することから、滑走路を現在の2,000mから2,500mに延長するものです。

佐賀県では、滑走路を延長するため、環境影響評価法の規程に基づき、環境影響評価方法書（以下、「方法書」という。）をとりまとめましたので公表します。

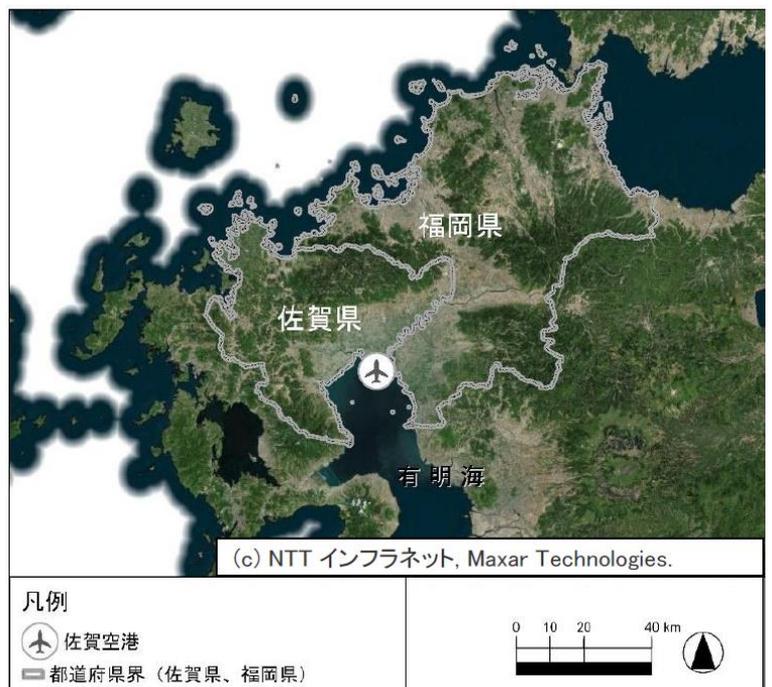
方法書とは、どのような項目について、どのような方法で環境影響評価を実施していくのかという計画を示したものです。今回、皆様からの意見をいただき、空港整備を実施していきます。

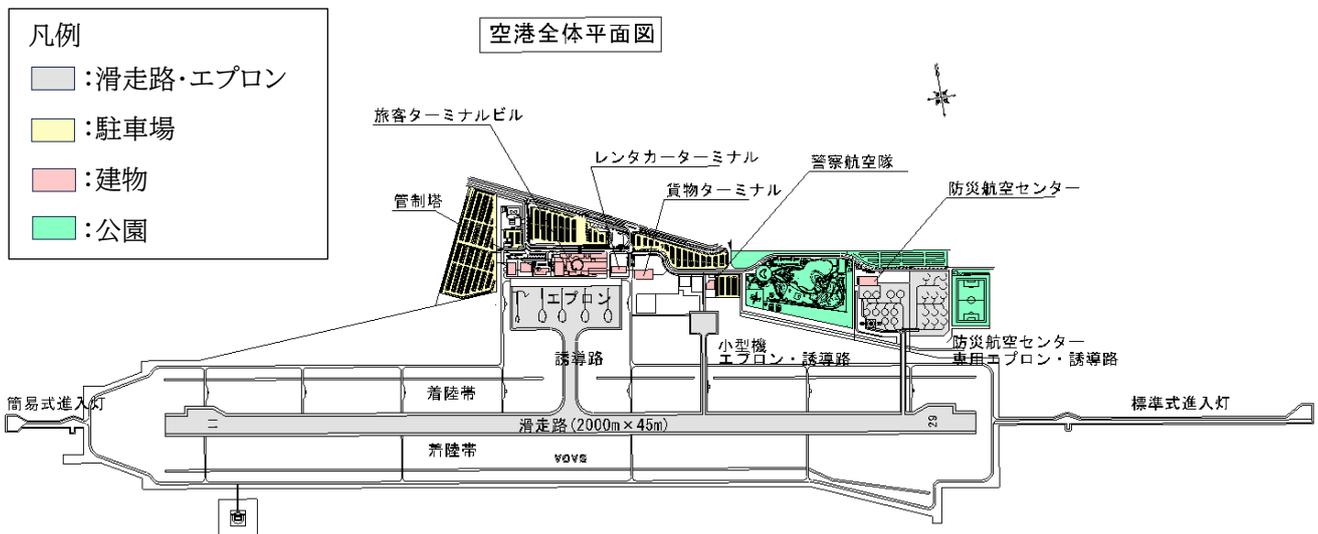
## ～参考～ 環境影響評価（環境アセスメント）とは

開発事業の内容を決めるに当たって、それが環境にどのような影響を及ぼすかについて、事業者自らが調査・予測・評価を行い、その結果を公表して一般の方々、地方公共団体などからの意見を聴き、それらを踏まえて環境保全の観点からよりよい事業計画を作り上げていこうという制度です。

# 2.佐賀空港の概要

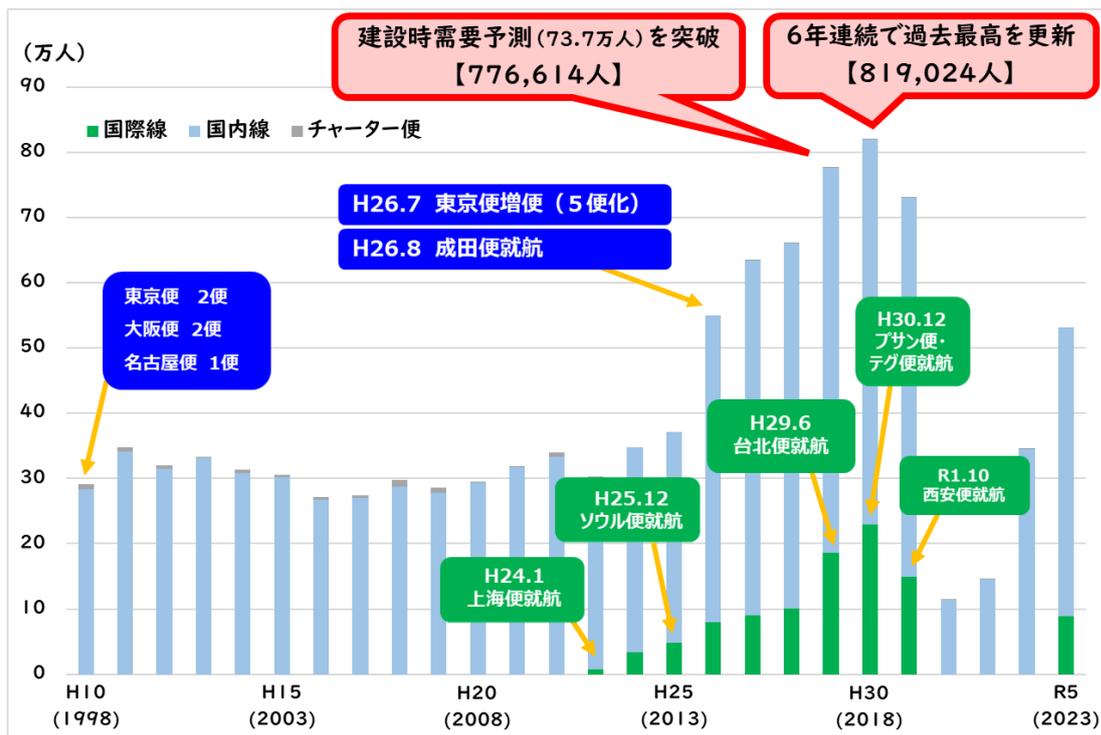
項目	内容
名称	佐賀空港 (愛称：九州佐賀国際空港)
種別	地方管理空港
設置管理者	佐賀県
位置	佐賀県佐賀市川副町
供用開始日	平成10年（1998年）7月28日
空港面積	114.1Ha
滑走路（長さ×幅）	2,000m×45m
スポット数	5スポット +小型機用4スポット
運用時間	6：30～24：00 (17.5時間)
旅客施設 旅客ターミナルビル	延床面積13,970㎡
駐車場	約2,200台
貨物施設・貨物上屋	延床面積1,210㎡





### 3. 利用状況

旅客数は、平成10年の開港以来30万人前後で推移していました。その後、平成24年度以降、国際線の就航や国内線の増便により、利用者数は増加傾向にあり、平成30年度には過去最高となる81.9万人を記録しました。令和元年度以降は、日韓情勢や新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大きく落ち込みました。令和4年度以降は、人流の本格的な回復に伴って利用者数は回復基調にあり、また、令和5年4月からは順次国際線が運航を再開しています。



### 4. 事業の概要

事業予定者の名称	佐賀県
代表者の氏名	佐賀県知事 山口 祥義
主たる事務所の所在地	佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号
事業の名称	佐賀空港滑走路延長事業
事業の種類	滑走路の延長を伴う飛行場及びその施設の変更の事業
事業の規模	延長する長さ 500m、延長後の滑走路長 2,500m

## 対象事業実施区域の位置

佐賀県佐賀市川副町のうち、下図に示す区域



## 5. 事業の位置・規模

佐賀県は、PI(パブリック・インボルブメント)の実施結果を踏まえ、下記の案により計画を進めることとしました。

### 滑走路を東側に 500m 延長

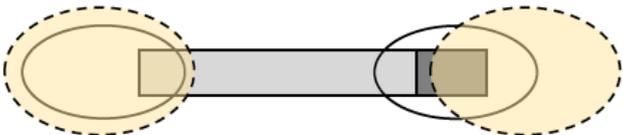
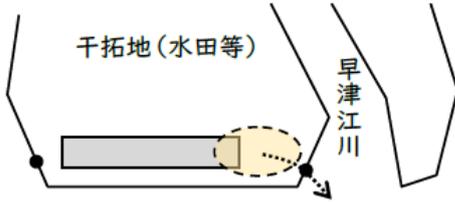


※ILS(Instrument Landing System : 計器着陸装置)

着陸のため滑走路へ向かって進入中の航空機に対して、指向性のある電波を発射して、滑走路への進入コースを指示する無線着陸援助装置

## 6. 計画段階配慮事項に関する予測結果

配慮書において検討した、計画案に関する航空機騒音や水質(水の濁りや汚れ)等の予測結果は以下に示すとおりです。

調査項目	滑走路を東側に 500m 延長
騒音	<p style="text-align: center;">〈航空機騒音の増加領域のイメージ〉</p>  <p style="text-align: center;"> <span style="display: inline-block; width: 20px; height: 10px; background-color: #cccccc; border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></span> :現在の滑走路  <span style="display: inline-block; width: 20px; height: 10px; background-color: #666666; border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></span> :滑走路の延長部  <span style="display: inline-block; width: 20px; height: 10px; border: 1px solid black; border-radius: 50%; margin-right: 5px;"></span> :現在の騒音影響のイメージ  <span style="display: inline-block; width: 20px; height: 10px; border: 1px dashed black; border-radius: 50%; margin-right: 5px;"></span> :供用時の騒音影響のイメージ         </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 航空機の離着陸回数の増加や大型化、搭載燃料の増加による離陸時の上昇角度が小さくなることに伴い、騒音影響は増加する。</li> <li>・ 滑走路は東側に向けて延長されるため、騒音影響を受ける領域が東側に移動する。</li> </ul>
水質(水の汚れ、土砂による水の濁り)	<p style="text-align: center;">〈排水の流出先のイメージ〉</p>  <p style="text-align: center;"> <span style="display: inline-block; width: 20px; height: 10px; background-color: #cccccc; border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></span> :現在の滑走路  <span style="display: inline-block; width: 20px; height: 10px; border: 1px dashed black; border-radius: 50%; margin-right: 5px;"></span> :変更区域のイメージ  <span style="display: inline-block; width: 5px; height: 5px; background-color: black; border-radius: 50%; margin-right: 5px;"></span> :排水樋門  <span style="display: inline-block; width: 10px; border-bottom: 1px dashed black; margin-right: 5px;"></span> :排水の流出先のイメージ         </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事中や供用時の排水は、空港周辺の水路から東側の排水樋門を經由して、早津江川河口や有明海(干潟域)に達すると考えられる。</li> </ul>

調査項目	滑走路を東側に 500m 延長										
動物	＜動物の生息環境へ想定される直接改変＞										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="469 327 863 389">動物の生息環境</th> <th data-bbox="871 327 1259 389">直接改変の状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="469 394 863 450">水田・畑地等</td> <td data-bbox="871 394 1259 450">一部消失</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 454 863 510">河川</td> <td data-bbox="871 454 1259 510">なし</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 515 863 571">干潟</td> <td data-bbox="871 515 1259 571">なし</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 575 863 607">注目すべき生息地</td> <td data-bbox="871 575 1259 607">一部消失</td> </tr> </tbody> </table>	動物の生息環境	直接改変の状況	水田・畑地等	一部消失	河川	なし	干潟	なし	注目すべき生息地	一部消失
動物の生息環境	直接改変の状況										
水田・畑地等	一部消失										
河川	なし										
干潟	なし										
注目すべき生息地	一部消失										
植物	＜植物の生育環境へ想定される直接改変＞										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="454 1200 845 1263">植物の生育環境</th> <th data-bbox="861 1200 1249 1263">直接改変の状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="454 1267 845 1323">水田・畑地等</td> <td data-bbox="861 1267 1249 1323">一部消失</td> </tr> <tr> <td data-bbox="454 1328 845 1384">河川</td> <td data-bbox="861 1328 1249 1384">なし</td> </tr> <tr> <td data-bbox="454 1388 845 1444">干潟</td> <td data-bbox="861 1388 1249 1444">なし</td> </tr> <tr> <td data-bbox="454 1449 845 1480">注目すべき生息地</td> <td data-bbox="861 1449 1249 1480">なし</td> </tr> </tbody> </table>	植物の生育環境	直接改変の状況	水田・畑地等	一部消失	河川	なし	干潟	なし	注目すべき生息地	なし
植物の生育環境	直接改変の状況										
水田・畑地等	一部消失										
河川	なし										
干潟	なし										
注目すべき生息地	なし										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな滑走路の整備（東側 500m）により、水田・畑地等で構成される環境に生息する動物の生息環境が一部消失するものと予測される。</li> <li>・注目すべき生息地（カササギ生息地、佐賀平野のクリークや水路）が一部消失するものと予測される。</li> <li>・対象事業実施区域の周囲には上記と同様の環境が広く残存すると考えられる。</li> <li>・航空機の離着陸回数の増加や大型化、搭載燃料の増加に伴う離陸時の上昇角度が小さくなることに伴い、干潟（東よか干潟等）や水域に生息する鳥類の移動の妨げとなる可能性、並びに航空機と鳥との衝突により、鳥類の重要な種に影響を及ぼす可能性が増加する。</li> <li>・供用時の排水は空港周辺の水路から東側の排水樋門を經由して、早津江川河口や有明海（干潟域）に達すると考えられる。</li> </ul>										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな滑走路の整備（東側 500m）により、水田・畑地等の植物の生育環境が一部消失するものと予測される。</li> <li>・重要な群落への直接改変はない。</li> <li>・対象事業実施区域の周囲の陸域には同様の環境が広く残存すると考えられる。</li> <li>・供用時の排水は空港周辺の水路から東側の排水樋門を經由して、早津江川河口や有明海（干潟域）に達すると考えられる。</li> </ul>										

調査項目	滑走路を東側に 500m 延長								
生態系	＜生態系へ想定される直接改変＞								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="434 302 930 392">生態系 (主な注目種)</th> <th data-bbox="930 302 1257 392">直接改変の 状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="434 392 930 629">耕地生態系 (ニホンイタチ、ハヤブサ、ヒバリ、ニホンカナヘビ、ヌマガエル、ツマグロバウタ、ヤマトシジミ、アオモンイトトンボ、モツゴ、水田雑草群落)</td> <td data-bbox="930 392 1257 629">一部消失</td> </tr> <tr> <td data-bbox="434 629 930 790">干潟生態系 (ズグロカモメ、ムツゴロウ、シオマネキ、オオツノハネカクシ、塩生植物)</td> <td data-bbox="930 629 1257 790">なし</td> </tr> <tr> <td data-bbox="434 790 930 913">市街地生態系 (ニホンイタチ、ムクドリ、ニホンカナヘビ、ヤマトシジミ)</td> <td data-bbox="930 790 1257 913">なし</td> </tr> </tbody> </table>	生態系 (主な注目種)	直接改変の 状況	耕地生態系 (ニホンイタチ、ハヤブサ、ヒバリ、ニホンカナヘビ、ヌマガエル、ツマグロバウタ、ヤマトシジミ、アオモンイトトンボ、モツゴ、水田雑草群落)	一部消失	干潟生態系 (ズグロカモメ、ムツゴロウ、シオマネキ、オオツノハネカクシ、塩生植物)	なし	市街地生態系 (ニホンイタチ、ムクドリ、ニホンカナヘビ、ヤマトシジミ)	なし
生態系 (主な注目種)	直接改変の 状況								
耕地生態系 (ニホンイタチ、ハヤブサ、ヒバリ、ニホンカナヘビ、ヌマガエル、ツマグロバウタ、ヤマトシジミ、アオモンイトトンボ、モツゴ、水田雑草群落)	一部消失								
干潟生態系 (ズグロカモメ、ムツゴロウ、シオマネキ、オオツノハネカクシ、塩生植物)	なし								
市街地生態系 (ニホンイタチ、ムクドリ、ニホンカナヘビ、ヤマトシジミ)	なし								
温室効果ガス等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たな滑走路の整備（東側 500m）により、水田・畑地等からなる耕地生態系が一部消失し、注目種等の生息・生育に影響を及ぼすと予測される。</li> <li>・ 干潟生態系及び市街地生態系への直接改変はない。</li> <li>・ 供用時の排水は空港周辺の水路から東側の排水樋門を經由して、早津江川河口や有明海（干潟域）に達すると考えられる。</li> <li>・ 対象事業実施区域の周囲には耕地生態系が広く残存すると考えられる。</li> </ul>								

本事業における環境影響は、適切に環境に配慮することで、重大な影響を回避又は低減できるものと考えられます。

今後の環境影響評価手続きにおいて、より詳細な調査、予測及び評価を行い、必要に応じて環境保全措置を実施します。

# 7.調査、予測及び評価の手法

## 〈選定結果の概要〉

### ◆環境影響評価の項目

本事業に関わる環境影響評価の項目は、当該事業の事業特性や地域特性を踏まえ、「飛行場及びその施設の設置又は変更の事業に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令」(平成10年6月12日運輸省令第36号)(以下、「主務省令」という)の参考項目を基本として、以下のとおり選定しました。

環境要素の区分				影響要因の区分			工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用		
				一時的な影響	建設機械の稼働	資材及び機械の運搬	飛行場の存在	航空機の運航	飛行場の施設の供用			
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	大気環境	大気質	窒素酸化物		◎	◎		◎	◎			
			粉じん等		◎	◎						
			浮遊粒子状物質		●	●		●	●			
		騒音	建設作業騒音		◎							
			道路交通騒音			◎			●			
			航空機騒音					◎				
		超低周波音					●					
	振動	建設作業振動		—								
		道路交通振動			◎			●				
	水環境	水質	土砂による水の濁り	◎								
			水の汚れ					◎				
底質		底質					○					
土壌に係る環境その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質				—						
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	動物	重要な種及び注目すべき生息地	陸生動物	●			◎	●				
			水生動物	●			—	○				
	植物	重要な種及び群落	陸生植物	●			◎					
			水生植物	●			—	○				
生態系	地域を特徴づける生態系	●			◎	●						
人と自然との豊かな触れ合いの確保を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観				—						
	人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場				◎						
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素	廃棄物等	建設工事に伴う副産物	◎									
	温室効果ガス等	二酸化炭素		●	●		●	●				
その他の温室効果ガス			●	●		●	●					
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき環境要素	放射線の量	放射線の量										

[備考]網掛けは、主務省令に基づく参考項目を示す。

◎●印は、各欄に挙げる環境要素が、影響要因の項に挙げる各要因により影響を受けるおそれがあるものとして、環境影響評価項目として選定した項目を示す。

◎印は主務省令による参考項目を基に選定した項目を示す。

●印は他空港の環境影響評価書を参考に選定した項目を示す。

○印は有識者の助言及び事業特性・地域特性を踏まえ選定した項目を示す。

—印は、主務省令に基づく参考項目のうち選定しなかった項目を示す。

## 〈大気質〉

### ◆ 調査、予測及び評価の手法

本方法書で選定し、準備書以降で行われる調査、予測及び評価の手法の概要は、次のとおりです。

環境要素		調査の手法		予測の基本的な手法
		調査項目	調査手法	
大気質	窒素酸化物	二酸化窒素濃度、気象、道路、交通量の状況	文献調査 現地調査	・大気の拡散式（プルーム式及びパフ式）を用いた計算により影響の程度を把握する方法、又は事例の引用による方法とする。
	粉じん等	降下ばいじん量、気象、道路の状況	文献調査 現地調査	・事例の解析に基づく経験式により、季節別降下ばいじん量を求める方法とする。 ・大気の拡散式（プルーム式及びパフ式）を用いた計算により影響の程度を把握する方法、又は事例の引用による方法とする。
	浮遊粒子状物質	浮遊粒子状物質濃度、気象、道路、交通量の状況	文献調査 現地調査	・大気の拡散式（プルーム式及びパフ式）を用いた計算により影響の程度を把握する方法、又は事例の引用による方法とする。

### ◆ 大気質調査地点位置図



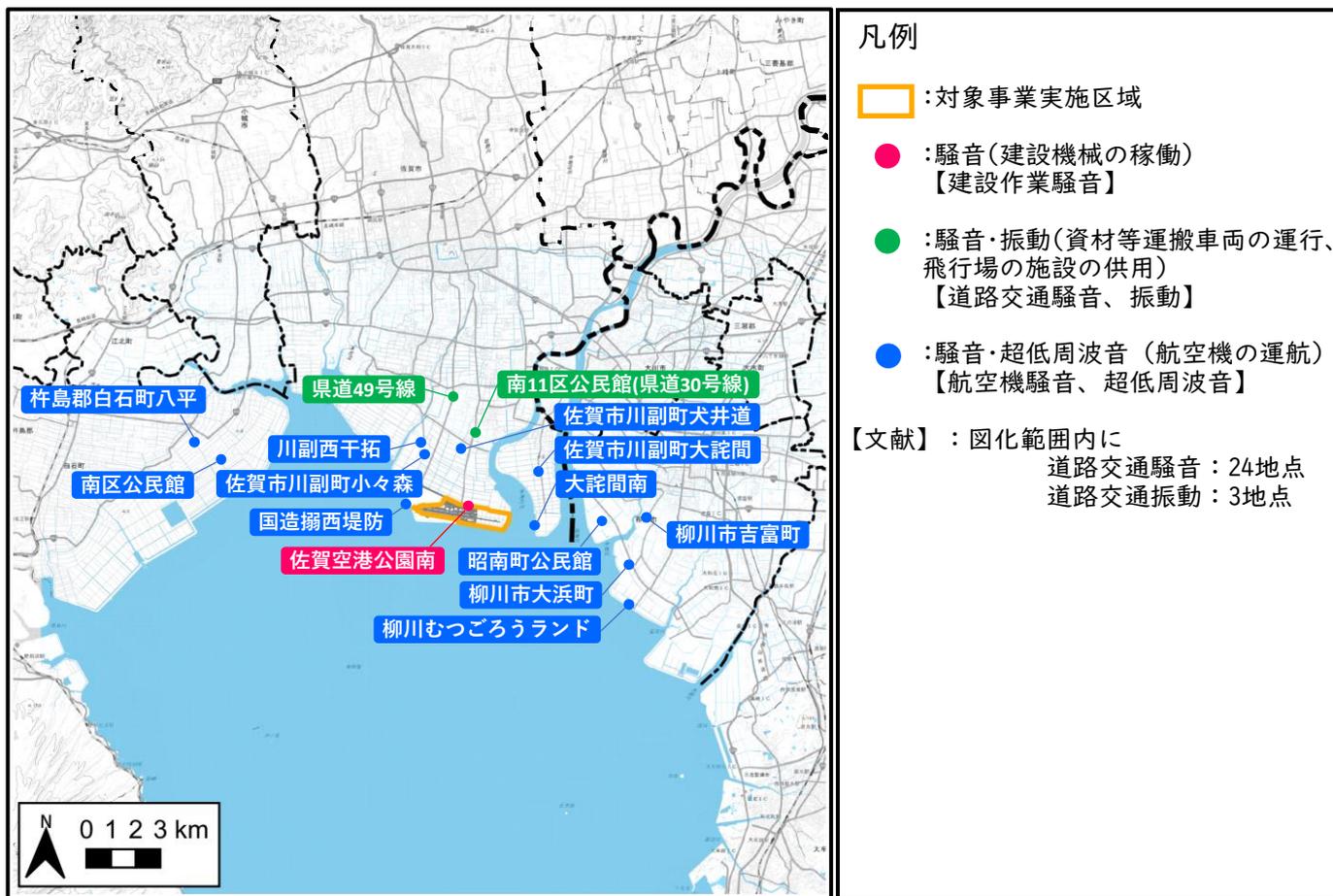
## 〈騒音、超低周波音、振動〉

### ◆ 調査、予測及び評価の手法

本方法書で選定し、準備書以降で行われる調査、予測及び評価の手法の概要は、次のとおりです。

環境要素		調査の手法		予測の基本的な手法
		調査項目	調査手法	
騒音	騒音	騒音、地表面、沿道、交通量の状況	文献調査 現地調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国土交通省モデル」により影響の程度の計算を行う方法とする。</li> <li>・音の伝搬理論に基づく予測式により影響の程度を計算する方法とする。</li> </ul>
超低周波音	超低周波音	航空機運航時の超低周波音	文献調査 現地調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音の伝搬理論に基づく予測計算式による方法とする。</li> </ul>
振動	振動	振動、地盤、交通量の状況	文献調査 現地調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振動レベルの80%レンジの上端値を予測するための式を用いた計算又は事例の引用による方法とする。</li> </ul>

### ◆ 騒音、超低周波音、振動調査地点位置図



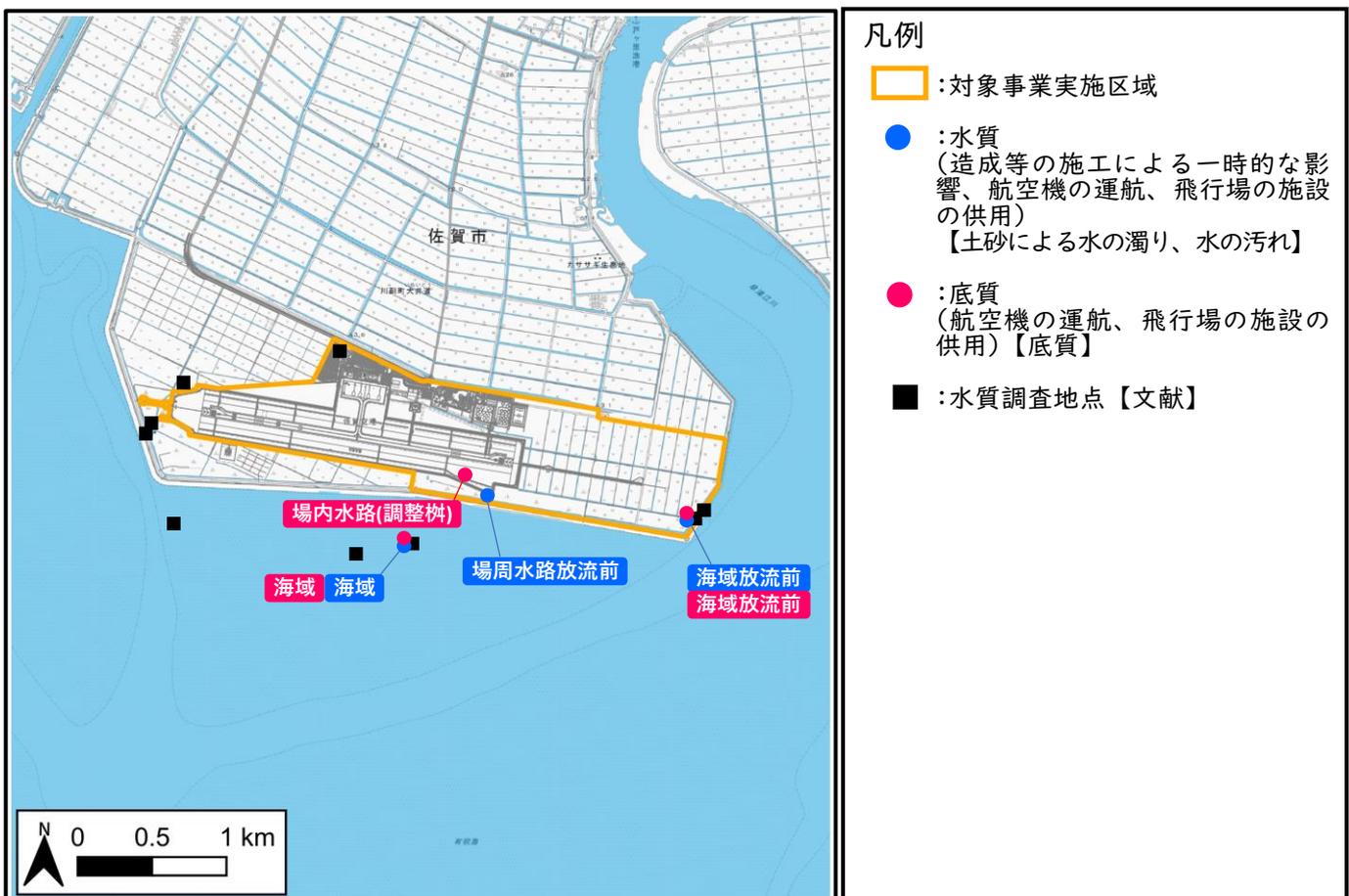
## 〈水質、底質〉

### ◆ 調査、予測及び評価の手法

本方法書で選定し、準備書以降で行われる調査、予測及び評価の手法の概要は、次のとおりです。

環境要素	調査の手法		予測の基本的な手法
	調査項目	調査手法	
水質	浮遊物質量、水温及び塩分、気象の状況	文献調査 現地調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>水路では、雨水の流出量等を踏まえ、浮遊物質量の増加量を算定し、水路で混合した後の濃度を算出する方法とする。</li> <li>海域では水路から排出される濃度の程度を想定して、現況値と比較を行うことにより影響の程度を把握する方法とする。</li> </ul>
	化学的酸素要求量及びその他項目、気象、国又は地方公共団体による水質に係る規制等の状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>現況と将来の航空機の離着陸回数及び防除雪氷剤等の使用量の差を将来の負荷量とし、現況の濃度に加えることにより計算する方法とする。</li> <li>海域では水路から排出される濃度の程度を想定して、現況値と比較を行うことにより影響の程度を把握する方法とする。</li> </ul>
底質	底質の状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>現況と将来の航空機の離着陸回数及び防除雪氷剤等の使用量の差を将来の負荷量とし、現況の濃度に加えることにより計算する方法とする。</li> <li>海域では水路から排出される濃度の程度を想定して、現況値と比較を行うことにより影響の程度を把握する方法とする。</li> </ul>

### ◆ 水質、底質調査地点位置図



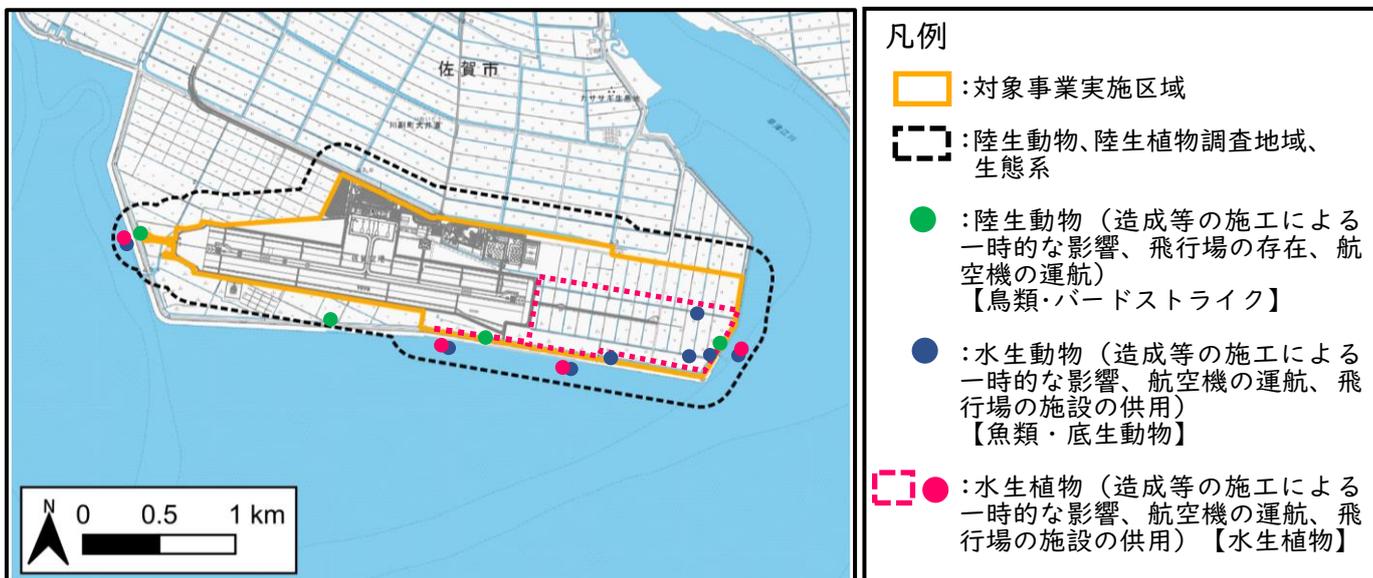
## 〈動物、植物、生態系〉

### ◆ 調査、予測及び評価の手法

本方法書で選定し、準備書以降で行われる調査、予測及び評価の手法の概要は、次のとおりです。

環境要素		調査の手法		予測の基本的な手法
		調査項目	調査手法	
動物	陸生動物	動物相の状況、重要な種の分布、生息地の分布及び生息環境の状況	文献調査 現地調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸生動物の重要な種の生息環境及び注目すべき生息地と事業計画とを重ね合わせるにより、生息環境の改変の程度を定性的に予測する方法とする。</li> <li>鳥類の重要な種の飛翔状況及び注目すべき生息地における飛翔状況と将来の飛行コースや飛行高度とを重ね合わせるにより、鳥衝突の可能性とそれがもたらす生息環境の変化の程度を定性的に予測する方法とする。</li> </ul>
	水生動物	動物相の状況、重要な種の分布、生息地の分布及び生息環境の状況	文献調査 現地調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要な種及び注目すべき生息地について、発生する水の汚れによる生息環境の変化の程度を定性的に予測する方法とする。</li> </ul>
植物	陸生植物	植物相及び植生の状況、重要な種及び群落の分布、生育及び生育環境の状況	文献調査 現地調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要な種及び群落の確認地点と事業計画を重ね合わせるにより、生育環境の改変の程度を定性的に予測する方法とする。</li> </ul>
	水生植物	植物相及び植生の状況、重要な種及び群落の分布、生育及び生育環境の状況	文献調査 現地調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要な種及び群落について、発生する水の汚れによる生育環境の変化の程度を定性的に予測する方法とする。</li> </ul>
生態系	地域を特徴づける生態系	動植物その他の自然環境に係る概況、地域を特徴づける注目種の生態、他動植物との関係又は生息生育環境の状況	文献調査 現地調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>注目種等について、工事により発生する濁水及び供用時に発生する水の汚れによる生息・生育環境の変化の程度を定性的に予測する方法、または、注目種等の確認地点と事業計画を重ね合わせ、生息・生育環境の改変の程度を定性的に予測する方法とする。</li> </ul>

### ◆ 動物、植物、生態系調査地点位置図



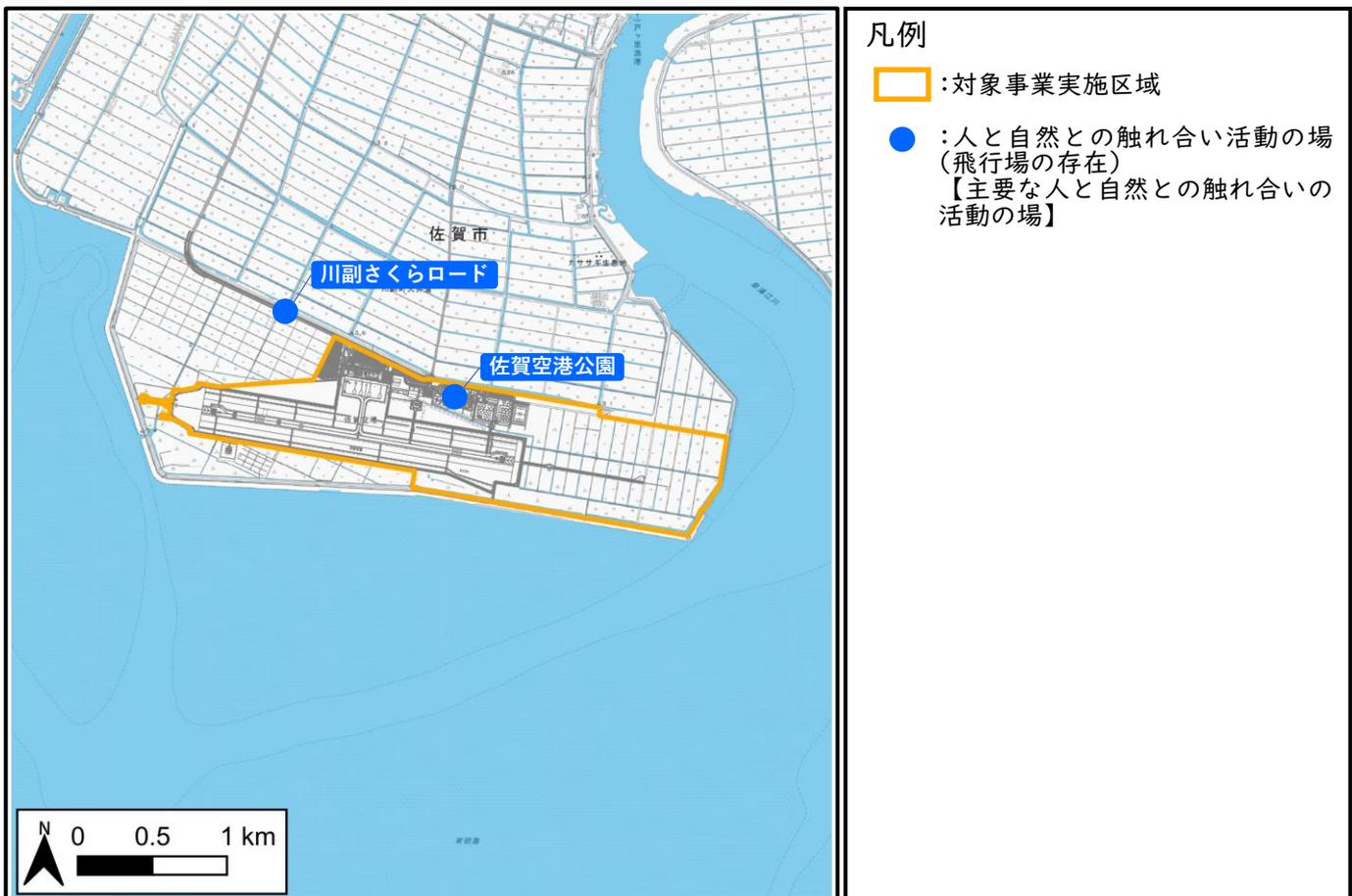
## 〈人と自然との触れ合いの活動の場、廃棄物等、温室効果ガス等〉

### ◆ 調査、予測及び評価の手法

本方法書で選定し、準備書以降で行われる調査、予測及び評価の手法の概要は、次のとおりです。

環境要素		調査の手法		予測の基本的な手法
		調査項目	調査手法	
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	概況、分布、利用の状況、利用環境の状況	文献調査 現地調査	・人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用環境等を踏まえた予測をする方法とする。
廃棄物等	建設工事に伴う副産物	処理、処分等の状況	文献調査	・施工計画及び既設構造物の状況を基に、建設副産物の種類ごとの発生の状況の把握を行う方法とする。
温室効果ガス等	二酸化炭素	排出係数及びエネルギー使用量	文献調査	・対象発生源毎のエネルギー消費量等を把握し、これに排出係数を乗じて温室効果ガスの排出量を算出する方法とする。
	その他の温室効果ガス等	排出係数及びエネルギー使用量		

### ◆ 人と自然との触れ合い活動の場調査地点位置図



## 〈調査・予測及び評価の概要〉

### ◆ 調査・予測

環境影響評価の項目ごとの調査・予測の手法の概要は、次のとおりです。

① 調査地域	対象事業実施区域及びその周囲の地域とする。
② 調査地点	環境影響を予測及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。
③ 調査期間等	環境影響を予測及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間及び時期とする。
④ 予測地域	環境影響を受けるおそれがある地域とする。
⑤ 予測対象時期等	環境影響を的確に把握できる時期とする。

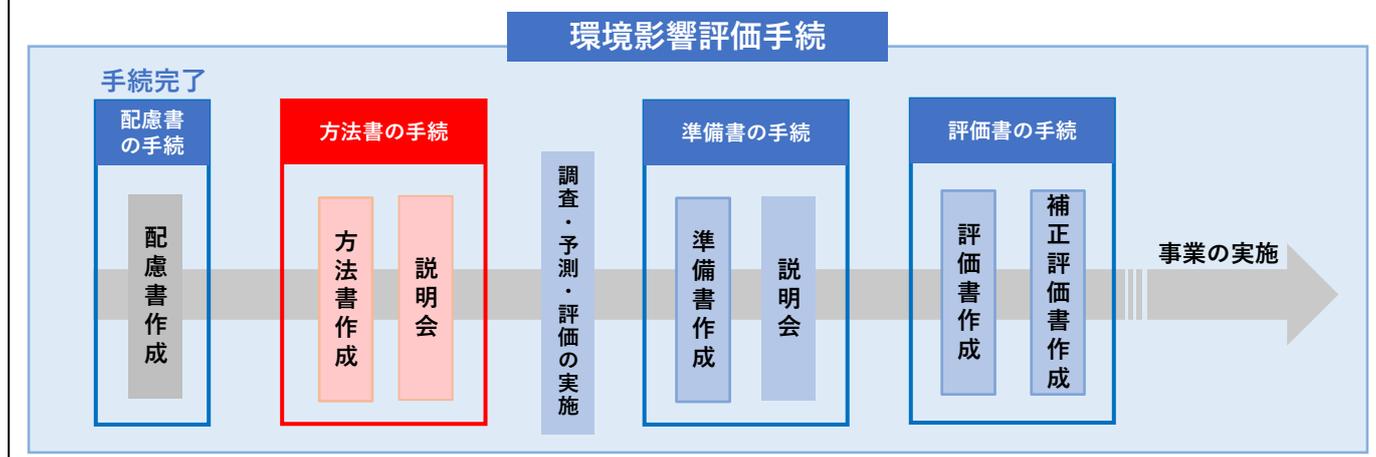
### ◆ 評価

環境影響評価の項目ごとの評価の手法の概要は、次のとおりです。

① 環境保全措置	可能なものは予測に反映するとともに、予測への反映が困難なものは別途記載して評価において考慮する。
② 環境影響の回避又は低減に係る評価	調査及び予測の結果並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減され、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。
③ 基準又は目標との整合	環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているかについて評価する。

## 8. 今後の流れ

環境影響評価法においては、方法書の手続き後に、準備書、評価書の作成を順次進めることとされています。



## 9.方法書の縦覧・意見提出について

縦覧期間	令和 6 年 4 月 12 日(金)～令和 6 年 5 月 20 日(月) (土曜日・日曜日及び休日を除く)午前 8 時 30 分～午後 5 時 00 分	
縦覧場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐賀県庁 行政の窓口 佐賀県佐賀市城内1丁目 1-59</li> <li>・佐賀県 佐賀空港事務所 佐賀県佐賀市川副町大字犬井道 9476-187</li> <li>・佐賀市役所 総務部 総務法制課 佐賀県佐賀市栄町 1-1</li> <li>・佐賀市役所川副支所 総務・地域振興グループ 佐賀県佐賀市川副町大字鹿江 623-1</li> <li>・白石町役場 総合戦略課 佐賀県杵島郡白石町大字福田 1247-1</li> <li>・柳川市役所 市民部 生活環境課 福岡県柳川市本町 87-1</li> </ul>	
意見の提出・ お問い合わせ 先	<p>提出先: 佐賀県 地域交流部 空港課 施設担当  T E L: 0952-25-7104  F A X: 0952-25-7318  M a i l: kuukou@pref.saga.lg.jp</p> <p>提出期限: 令和 6 年 6 月 3 日(月) 午後 5 時まで  郵送の場合は 6 月 3 日の消印まで有効</p> <p>記載事項: 氏名及び住所、方法書の名称並びに環境の保全の見地からの意見  ※佐賀空港のホームページにおいても方法書をご覧ください。</p> <p><a href="https://www.pref.saga.lg.jp/airport/kiji00398142/index.html">https://www.pref.saga.lg.jp/airport/kiji00398142/index.html</a></p>	 <p>↑ホームページ はこちら</p>
説明会の開催 場所及び日時	<p>(1) 場所: 杵島郡白石町大字福富 3535 番地 1  福富ゆうあい館 研修室(1)(2)  日時: 令和 6 年 5 月 11 日(土) 午前 10 時から (1 時間半程度)</p> <p>(2) 場所: 佐賀市川副町大字鹿江 422 番地 1  南川副公民館 集会室  日時: 令和 6 年 5 月 11 日(土) 午後 2 時から (1 時間半程度)</p> <p>(3) 場所: 福岡県柳川市上宮永町 6 番地 3  柳川総合保健福祉センター 視聴覚室  日時: 令和 6 年 5 月 12 日(日) 午前 10 時から (1 時間半程度)</p>	